



ペリフェリ ⑬



スウェーデンの国柄

日本赤十字社 常任理事 渡邊 芳樹

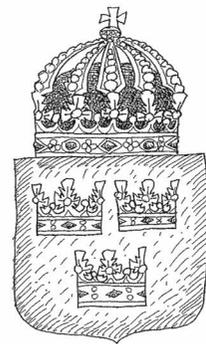
一般に著しく長身のスウェーデン人だがその性格は穏和でシヤイ。日本人に馴染みやすい。質実剛健で民主主義と自由貿易を信奉する良きパートナーだ。

日本は昔から政治も宗教も中国から学びつつ独立を堅持し、明治以降は一転し脱亜入欧を基本に欧米に学び、戦後は圧倒的な米国の影響の下に発展した。

スウェーデンは略奪と交易のバイキング時代を経て16世紀スウェーデン中心に建国。その後デンマークを駆逐し他国に攻め込む荒々しい国だった。しかし19世紀初めのナポレオンの対ロシア戦争を契機に中立政策に転じ、先の大戦も周辺諸国が他国に攻略されたなかで国内を戦場にせず欧州の戦後復興需要を捉えて発展した。

輸出立国で「欧州の日本」と言われた。90年代の世界価値観調査によれば世俗的合理的価値観と自己表現価値観の物差しでスウェーデンと日本は突出し近接している。しかし法規範は欧州中央のローマ法が及ばず平等

と共有の古代ゲルマン法が残る珍しい国でもある。



日本では「欧米では」などと他国に範を求めるのが定番だが、スウェーデンは違う。唯我独尊の気風がある。新型コロナウイルス対策ではロックダウンも小学校休校もせず世界の注目を浴びた。他国の動向に左右されず、独立行政庁の判断と説明に委ねて社会的持続性戦略を徹底した。一時は介護施設中心に死亡

者が多く出たが今では超過死亡率も欧州最少を誇っている。世界の科学等を俯瞰して授与するノーベル賞も国の誇りである。スウェーデンは1995年にEUに加盟。社民党カールソン元首相に当時の心境を聞いた。

EU加盟で自国の高度な福祉社会が損なわれる心配から迷いはなかったかと聞くと、「否。全く迷いはなく欧州関与を決断した」と語った。

またロシアのウクライナ侵攻を機に2024年にスウェーデンもNATOに加盟。中立政策から軍事同盟への主体的決断だった。ヘグベリ駐日大使(当時)は二重基準の国という国際的批判から卒業できると安堵の表情を見せたが、今や米国の同盟軽視でNATO自体に黄色信号。難しい時代だ。

国内では移民系マフィアの武力抗争激化で移民政策を転換し経済や社会の移民依存も曲がり角。給付金改革で就労シフトを徹底し手取り増のため就労税額控除を拡充。食品付加価値税率も半減。高負担高福祉の国として50%近くあったGDP比租税負担率(skattkvot)も大幅低下し今年40.7%。頼り甲斐のある福祉を守るのか、スウェーデンらしい選択を見たいものだ。